

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100027		
法人名	有限会社 瀬戸内荘やまもと		
事業所名	グループホーム みかん畑		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字西方463		
自己評価作成日	平成29年 6月 14日	評価結果市町受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年8月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で草ひき、水やり、花の手入れ、洗濯、食事の準備や後片付け、掃除など職員と一緒にしている。カラオケや踊りなどで退屈しないよう取り組んでいる。地域とのつながりを大切にし、地域のお祭りや行事に参加している。みかん畑祭りや敬老会にはご家族に参加して頂いたり、ゆる体操や地域の方の協力がある。遠出をして外食や買い物を楽しんだり、外出が難しい方でも洗濯や外カフェ、散策、移動バン屋での買物などにお誘いして外に出る時間を作っている。散策や生け花、お花見やそうめん流し、納涼祭、敬老会、クリスマス会、節分、ひな祭りなどの行事で季節を感じられるようにしている。内部研修や認知症勉強会を定期的に行い職員のスキルアップ、支援の向上につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな風土の中にあり、事業所が地域に開かれたケアの拠点として位置付けられています。利用者は、地域の秋祭りや小中学生の亥の子行事に地域の人と一緒に参加されている他、小学校の運動会や中学校の文化祭の見学に出向かれたり、地元の歌手グループやゆる体操のボランティアが来訪され、交流を楽しんでおられます。事業所主催のみかん畑まつりには家族を招待されたり、納涼祭では、利用者は浴衣を着て盆踊りをされたり、屋台でかき氷やにぎり寿司、天ぷらうどんなどを食べて、参加されている地域の人と交流しておられます。利用者のしたいことやできることを把握されて、近隣や道の駅までの散歩や買い物、利用者一人ひとりの状態に合わせた移動方法を工夫されて近隣の市町への外出支援や行事への参加、戸外にパラソルを出して喫茶、みかん狩り、カラオケ、書初め、生け花、手紙の返事を書くなど、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされて、一人ひとりに合わせた支援をしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関ロビーに掲示し、パンフレットにも記載している。ミーティングで再確認をし、施設行事にご案内したり、地域行事に参加している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり事業所内に掲示している。管理者と職員は、職員ミーティングやケアカンファレンス、ケアプラン作成時に理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり、地域の河川清掃に参加している。秋祭りには神輿が来てくださり、亥の子様では子供たちが来て一緒に亥の子唄を歌いながら石をついたり寄付をしている。散策時には地域の方と立ち話をしたり、お花や果物を頂くこともあった。	自治会に加入し、回覧板を回している。職員は海岸清掃に協力し、河川清掃には利用者と職員と一緒に参加している。事業所主催のみかん畑まつりに家族を招待したり、納涼祭では、利用者は浴衣を着て盆踊りをしたり、屋台でかき氷やにぎり寿司、天ぷらうどんなどを食べて、家族や地域の人との交流を楽しんでいる。地域の秋祭りや亥の子行事で来訪している小中学生と交流がある他、小学校の運動会見学と競技への参加、中学校の運動会や文化祭の見学に出かけている。地元の歌手グループやゆる体操などのボランティアの来訪があり、交流している。日頃の散歩時に近所の人と挨拶を交わしたり、地域の人から季節の花や果物の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や地域の方から相談があった時にはお話をさせて頂いている。東和地区民生委員の会議に参加し意見交換をしたり、情報提供をした。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価について内部研修を行い、各自で自己評価を行った。目標達成計画を振り返り、達成出来ていない項目について検討し、改善に取り組んでいる。	管理者は、評価の意義について説明している。全職員が自己評価をするための用紙に記録したものを各ユニットでまとめ、各ユニットの管理者2人と計画作成担当者2人の合計4人で話し合って作成している。自己評価を通して、急変時の対応の仕方を学ぶ必要性に気づき、改善に取り組んでいる。前回の評価結果を受けてや昨年自己評価では、車椅子利用の利用者の外出計画、重度化している利用者の行事参加、応急手当や初期対応訓練について目標達成計画を立て、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活状況を報告し、評価をして頂き、助言・相談・意見をミーティングで検討している。	会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の運営状況、利用者の状況報告や退居報告、行事報告と今後の行事予定、職員の研修、外部評価への取り組み状況等について報告し、認知症カフェの実施について、場所等の確保が難しい現状を伝えたり、利用者の一日の暮らし方を説明するなどしている。参加者から、福祉を取り巻く現状など専門的な指導や助言を得ている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月東和ケア会議に出席し他施設や町担当者と情報交換している。町担当者が運営推進会議に出席された時に意見や助言を頂いている。分からない事がある時には介護保険課にその都度連絡し助言を得ている。	町の担当課職員とは、直接出向いたり電話で問い合わせる他、月1回の東和ケア会議で情報交換を行って協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で事例の相談や情報交換を行うなど連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や認知症研修でその都度勉強している。生命の危険がある時には医師やご家族と相談し、やむを得ない時には承諾を頂き、必要最低限とし、記録をしている。	身体拘束防止のマニュアルがあり、職員は内部研修や認知症の勉強会で学び、抑制や拘束のないケアに努めている。スピーチロックについて、気になる場合は管理者が注意し指導している。玄関は施錠していない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力として利用者を傷つけないよう日々気をつけ、気になる事は職員同士で相談したり、ミーティングで虐待防止について勉強している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	短期入所利用者で権利擁護を利用された方がいたが、引継ぎだけで研修はしていない。東和ケア会議では勉強の機会がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時重要事項説明書や契約書・利用料を丁寧に説明し、不安等をお聞きしている。料金改定の際には意見欄をつけた同意書を送付している。施設での対応が困難と思われる時にはご家族・医師と相談している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時 重要事項の苦情窓口について説明している。苦情や意見があった時にはミーティングで職員に伝え、反省を行い、対応方法を検討している。	苦情相談窓口及び担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。家族からは面会時、運営推進会議時、行事参加時、電話等で意見や要望を聞いている。月1回事業所だよりと一緒に個別の便りで利用者の近況報告を行っている他、面会時には職員の方から声をかけて利用者の現状を細かく伝えるようにし、家族から意見が出しやすい関係づくりに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや業務中気になる事がある時にはその都度意見交換するようにしている。言いにくい時には個別に管理者・ケアマネが聞いて検討している。	月1回のミーティングや毎日の申し送りの中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は個人面談以外にも、普段から意見を言いやすい環境を整えている。職員からは勤務形態や勤務時間の変更等への意見があり、検討している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休や勤務体系、勤務時間等個人の都合を取り入れている。業務分担を行い、手当をつけたり、お互いに評価するなどやりがいを持って仕事ができるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングで内部研修や認知症勉強会をしている。外部研修にはすべての職員が出席出来るよう参加を促してる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて受講の機会を提供し、参加者は復命報告をしている。内部研修は、認知症の勉強会（レビー小体認知症、帰宅願望の理解、地域資源の開発など）の他、接遇、介護記録、感染症対策などをテーマにし実施している。新人研修は、事業所のマニュアルを基に、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長がグループホーム協会に参加し情報交換している。他グループホーム管理者による勉強会があった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査を行い、不安な事、希望等を聞いてケア内容に組み込んでいく。サービス利用事業所や担当ケアマネ、病院関係者から生活状況などについて情報提供して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査に出来るだけご家族に参加して頂いている。入居の際にも不安な事、要望をお聞きしケア内容に取り入れている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望を再確認し、必要に応じてケア内容を変更している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で入居者が出来る事は声かけをして、無理せず、出来る範囲で一緒にしている。家事作業をしながら教えて頂いたり、昔話をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のみかん畑通信、家族便り等で状況報告している。体調変化や悪化時には頻繁に連絡をとり、受診状況を報告したり、今後の対応を相談している。面会時に家族写真を撮って一枚は居室に飾り、一枚はご家族に渡している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地区や地域のお祭りや行事にお連れしている。ご家族の了解を得て、地域の方と行事に参加される方もいる。お墓参りにお連れしている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪があり、居室で利用者と一緒にゆっくり過ごしている他、年賀状や手紙での交流の支援をしている。馴染みのスーパーへ買い物に行ったり、盆踊りやもちまき、亥の子行事に参加したり、家族の協力を得てお大師参りや美容院の利用、墓参り、温泉旅行、一時帰宅、外泊、法事への出席、誕生日の外出、外食に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	畑仕事や家事作業の時には仲間を作って声かけをしている。ゆる体操や外カフェ、散策、行事などで1・2階の入居者の交流が出来るようにしている。		
		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にはお見舞いに伺ったり、他施設に変わられた方の面会に伺っている。入院が長引いたり、対応困難により退居になってもお見舞いに伺いご家族に連絡をしている。家族の希望があれば退居後も他施設入居の相談、申請代行をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後の生活状況を見たり、気付きや表情等で出来るだけご本人の要望に近づけるようミーティングで意見交換し検討している。ご家族や利用者同士の会話から希望をくみ取るようにしている。	事業所が独自に作成した事前調査票(入居者相談シート)やアセスメントシートを活用している他、日々の関わりのなかでの利用者の言葉や行動、様子などを個別ケア記録票に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、カンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査だけでなく、ご本人から話を聞いたり、面会に来られたご家族や地域の方からお話を聞いて情報を得ている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや日誌に目を通したり、他の職員に直接聞いたりして現状を把握し、変化をより早く見つけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には介護計画見直しの前にご意見・ご要望をお聞きしている。ミーティングで前回の介護計画について全員の意見を聞いて介護計画を作成している。生活の中で急変や入院があった時にはその都度見直しを行い計画を変更している。	利用者を担当している職員や計画作成担当者を中心に、本人からの要望、家族の意見や希望、主治医からの意見を参考にして、月1回のミーティングで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し見直している他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に日々の状況を記録している。特に注意したいことにはマーカーで印をしてすぐに気付けるようにしたり、連絡ノートに記入して情報の共有に努めている。必要があればミーティングで検討している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人1人の思いをくみ取り、変化や身体的低下等が見られたらその都度ご家族と相談し対応を検討している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるゆる体操、訪問美容、移動パン屋、馴染みの衣料品店による訪問販売、外食、買物などを楽しんで頂いている。消防署に防災訓練に参加して頂き、AEDや心肺蘇生法の指導をして頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に受診している。症状によっては主治医ではなく協力病院に往診して頂くこともある。病状によってはご家族と相談して主治医を変更している。運営推進会議に協力病院の医師の参加があり、意見やアドバイスを頂いている。	事業所の協力医療機関の他、利用者や家族が希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関からは定期的に訪問診療があり、その他の医療機関は家族の協力を得て受診の支援をしている。歯科は、希望により往診がある。緊急時や夜間は、それぞれのかかりつけ医の指示を仰いで対応し、症状によっては、近隣の総合病院と連携を図っているなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病状により主治医に相談したり、往診可能な医師にアドバイスを頂いている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にお見舞いに伺いご家族や看護婦等から治療状況を聞いている。入退院時には連携室や病院ケアマネに相談したり、状況の把握、情報交換している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設でお世話できる限界は説明しているが早い段階での話し合いは出来ていない。重度化した時にはご家族、医師、連携室と連絡を密にとり、出来るだけご家族の希望に添えるように努めている。	契約時に、重度化した場合や終末期の対応について、事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、本人や家族の意向をふまえた上で、かかりつけ医と相談し、他施設や医療機関への移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒・徘徊・一人外出防止として職員同士で声をかけ合い見守りをしている。誤薬防止として配薬・服薬前の名前の確認など何人もが責任を持つようにしている。ひやとした事にはひやり・はつとに記録しミーティングで再発防止に努めている。	ヒヤリ・ハット、事故報告書に記録し、発生の都度話し合い、対応策については管理者が口頭で示している。他の職員には連絡帳で回覧し周知を図っている。月1回のミーティングで再度話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に努めている。事故発生時の対応として、消防署の協力を得てAEDの使い方と誤嚥時の初期対応について全職員は訓練を受けているが、全ての職員が応急手当や初期対応の定期的な訓練を行い、実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 夜間を想定した避難・誘導訓練をしている。訓練前には2階からの階段を使った避難方法を検討した。	年2回(うち1回は消防署の協力を得て)、夜間想定火災時避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。自然災害に関しては、地震では避難場所の確認、水害では2階への避難誘導や移動訓練を利用者も一緒に行っている。スプリンクラーの作動確認の他、事業所裏手に、はしご車が入れるように土地を整備している。職員間の緊急連絡網を使った訓練を年2回抜き打ちで行い、災害時に備えている。地域と協力体制を築いているとは言えない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣・排泄介助時には必ずドアを閉めている。PTに座って頂いた時にはバスタオルをかけて対応している。内部研修時スタッフマニュアルの中の思いやり・言葉の暴力・プライバシーの保護について見直しをしている。	スタッフマニュアルを基に接遇についての内部研修を行い、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で買物や散歩などすぐに出来る事は実践している。自己決定が難しい方は声かけをして選んで頂いたり、工夫して想いが伝わるよう話しかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など1人1人の生活状況に合わせて、その日の様子を見ながら支援に努めている。ご本人から希望があれば可能な限りすぐに対応するようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝夕の声かけをし、一緒に着替えの準備をしたり、温タオルをお渡ししたりしている。男性入居者にはひげそりをお渡しし、剃り残しがあるときには声をかけて支援している。訪問美容や行きつけの美容院にお連れするなどの支援をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みそ汁作り、後片付け、テーブル拭き、野菜の下処理など出来る方に、出来る時に無理のない範囲で一緒にしている。季節の行事食を取り入れたり、外食に出かけるなど楽しめる工夫をしている。	食事は、法人からの配食を利用し、ご飯と汁物は事業所で調理している。事業所の畑やプランターで収穫した野菜(さつまいも、トマト、すいか、なすび、かぼちゃ等)、近所の人からの差し入れの魚を用いることもある。利用者は、米を研いだり、みそ汁をつくる、箸を並べる、テーブル拭き、配膳、後片付け、皿洗いなどできることを職員と一緒にしている。季節の行事食(節分に巻きずし、花見団子、彼岸におはぎ、そうめん流し、年末にもちをまるめるなど)、おやつづくり(ホットプレートでホットケーキを焼く、フルーツポンチの盛り付け、クリスマスケーキや誕生日ケーキの飾りつけなど)、誕生会や月1回の外食など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下や咀嚼状態が悪い方には食事の形態を変えて対応している。スプーンやフォーク、とろみ剤、取って付の食器などで出来るだけご自分で食事が出来るよう工夫している。食事記録を確認して不足している時には別の食事や時間をおいて食べやすい食事を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをしている。出来ない方はお茶でゆすいで頂いたり、スポンジブラシで口腔ケアしている。義歯の方は夕食後消毒液につけている。ご家族から希望があれば歯科受診している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を見て長時間排泄のない時には声かけをして、トイレにお連れしている。オムツ利用の方も日中は出来る限りトイレやPTの支援を行い、一日一回は陰部洗浄をし清潔に気をつけている。	排泄チェック表を活用し、時間を見計らって、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容を工夫したり、水分摂取や散策に努めている。便秘気味の方はトイレやPT使用時に腹部マッサージをしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の声かけをして希望を聞いている。入浴拒否が続く方は人を変えたり、声かけの工夫をしている。冬場脱衣所が寒いので暖房器具を使用し、廊下に出た時の温度差に気をつけている。	入浴は毎日、13時30分から16時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて入浴を支援している。歌を歌ったり、冬季には入浴剤、冬至には本物のゆずを浮かべて、香りを楽しめるように支援している。入浴したくない利用者には、無理強いせず時間をずらしたり声かけを工夫するなどして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室に温室計を置き、加湿・除湿・エアコンなどで室温調整し気持ち良く眠れるようにしている。昼食や外出、行事の後は居室でゆっくりと休んで頂いている。夜間眠れない時は食堂でお話を聞いたり、自分のタイミングで眠くなるまでくつろいで頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の前には名前を確認している。錠剤が飲み込みにくい方は粉状にしたり、服薬が難しい方にはジャムやヨーグルトに混ぜるなどしている。下剤利用者は状態に合わせ、服薬の有無を職員同士で確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・畑仕事・生け花・カラオケ・レクレーションなどの声かけをして活躍出来る場の提供に努めている。ご自分の誕生日ケーキのトッピング、おやつ作りなど今まで経験したことのない事をして喜ばれる事もある。	テレビ視聴（連続ドラマ、歌番組、サッカー、相撲、高校野球）、DVD視聴（歌番組）、歌を歌う、新聞購読、折り込みチラシを見る、新聞紙でゴミ箱づくり、雑誌を読む、カラオケ、ぬり絵、折り紙、ゆる体操、タオル体操、棒体操、指の運動、戸外にパラソルを出して喫茶、事業所主催行事（みかん畑まつり、納涼祭、敬老会、クリスマス会）、八十八ヵ所参り、季節の花見、季節行事、誕生会、職員宅でのみかん狩り、ドライブ、買い物、鉢植えの水やり、草引き、野菜の収穫、野菜の下ごしらえ、米を研ぐ、みそ汁をつくる、箸を並べる、テーブル拭き、配膳、後片付け、皿洗い、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ボタンつけ、掃除（箒で掃く、掃除機をかける）、自室のゴミを出す、河川清掃、回覧板を届ける、生け花、書初め、すごろく、ボーリング、旗揚げゲーム、大島かるたのかかるた取り、トランプの七並べ、すいか割り、喫煙、年賀状の支援、手紙の受け取り、手紙の返事書き、電話など一人ひとりのしたいことや好きなことをみつけ、日々の生活の張り合いとなるよう場面づくりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一日一回は外に出たいと希望する方は仲間と一緒に洗濯干しや取り込みなどで一緒に外に出ている。お花見、お接待、地域行事、みかん狩りなどは普段外出の機会が少ない方も出来るだけ参加して頂いている。	近隣や道の駅までの散歩、買い物、地域の秋祭りへの参加、季節の花見(梅、河津桜、ソメイヨシノ、あじさい、ひまわり、コスモス等)、みかん狩り、ドライブ(片添ヶ浜の海を見に行く、星野哲郎記念館の見学、伊保田の陸奥記念館見学、自宅の玄関まで行く)、月1回の外食、家族の協力を得て温泉旅行、一時帰宅、外泊、法事への出席、誕生日に外出、外食に出かけるなど、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に盗られ妄想によりトラブルになることがあるので金銭管理はしていないことをご家族に説明している。必要な時には施設で立て替えている。買物の時には施設でお金を用意して支払をして頂く事もある。ご家族の希望で訪問パン屋さんには使っている方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	荷物が届いた時には電話や手紙の支援をしている。ご家族の希望があれば携帯の支援をしている。お正月には年賀状を書いて頂き、書けない方はスタンプを押して頂いている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節の掲示をしている。トイレやオムツ交換後は脱臭剤を使用している。窓の開閉やエアコンで廊下や食堂の室温調整している。	食堂兼居間は風通しが良く広々とゆったりとしていて、季節の花を生けたり、季節の飾りを飾っている。食堂やロビー、廊下には仲の良い利用者同士が話をしたり、一人でゆっくり過ごせる椅子やソファを配置している。共用空間にはテレビがあり利用者が一緒に楽しむことができる。室内には加湿器を設置し、温度や湿度に配慮し、明るさや音も適切に調節して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファや長椅子を置いて、友達同士で話をしたり、くつろいで頂いている。1人で食堂のテレビを見たり、ソファに座られている時にはしばらく見守りをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物を持って来て頂いている。フローリングでも希望があれば畳を敷いたり、ベットを片付けて布団を使って頂いている。こたつを持って来られた方もいる。	寝具やたんす、テーブル、鏡台、冷蔵庫、電気髭剃り器、携帯電話、小型テレビ、ワゴンなど使い慣れたものを持ち込み、手づくりカレンダーや自分の作品、家族や親族の写真を飾って居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一階はバリアフリーで廊下には手すりがついている。居室・トイレ・お風呂などには名札をつけて場所が分かるようにしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム みかん畑

作成日：平成 29 年 12 月 15 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	日常のヒヤットしたことや「これは危ないのでは？」と思ったことの記録がない。 全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練が少ない	ヒヤリハットを記録し、全職員で共有し、事故防止に努める。 応急手当の定期的訓練を行い、事故発生時・急変時に対応出来るようにする。	日常の些細なこと、気をつけたいことを記録する。事故につながりそうな事はヒヤリハット記録して今後の対応をミーティング等で全職員で検討したり、運営推進会議で報告し、得た助言はミーティングで職員に報告し情報を共有し事故防止に努める。 消防署の方の指導だけでなく、内部研修や認知症勉強会で応急手当の方法を訓練する。	1年
2	36	年2回の防災訓練に地域の方の参加がない	地域の方に参加して頂き、災害時に迅速に避難出来るようにする	地元消防団、ご家族に訓練の参加を呼びかける。	1年
3	5	運営推進会議に地域メンバーが少ない	地域の方にも参加して頂き、みかん畑について知って頂いたり、情報交換する。	近くに住むご家族、地区民生委員、地元消防団、老人クラブなどに声をかけて会議に参加して頂く。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。